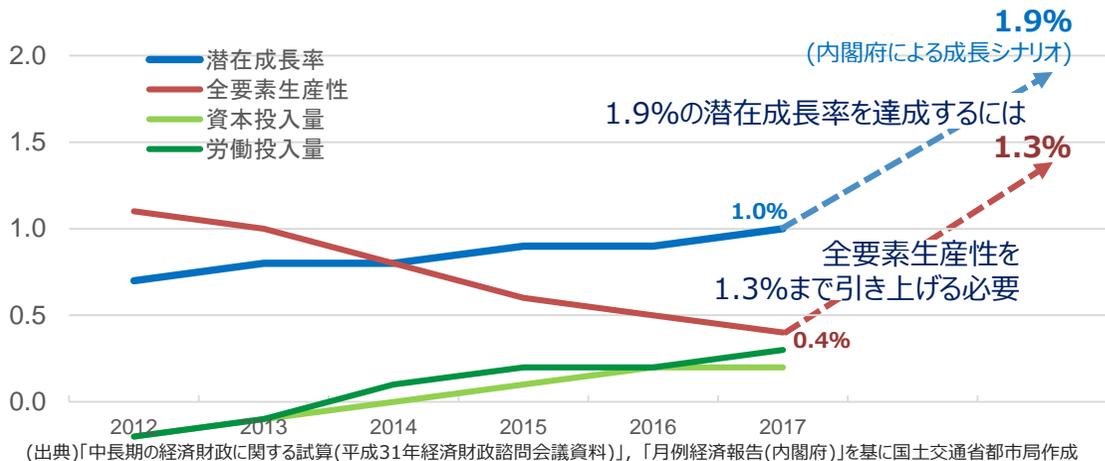


- 人口減少社会において経済成長を持続するには、生産年齢人口の減少を上回る生産性向上が必要。
- 一方、働き手や企業構成など社会経済には「多様性」の兆候がみられ、これら多様性の集積・交流を通じた「イノベーション」の創出を「生産性向上」につなげられれば、一定の経済成長は可能。
- その際、「偶然の出会い」や「リアルな繋がり」をはじめ、都市空間にはどのような機能が必要か。また、そのためにはどのような取組が必要か。



(出典)「中長期の経済財政に関する試算(平成31年経済財政諮問会議資料)」, 「月例経済報告(内閣府)」を基に国土交通省都市局作成

潜在成長率 = 労働投入量 + 資本投入量 + 全要素生産性

## 社会経済における「多様性」の例

### 働き手の多様化:

女性就労率 **約50%**(2017)  
 高齢者就労率 **約45%**(2017)  
 (65~69歳)

### 企業構成の多様化:

国内VC\*等によるベンチャー企業投資額  
 5年で**2.7倍**(2012→17)  
※ベンチャーキャピタル企業

### 働き方の多様化:

都内のコワーキング・スペース  
**累計6万㎡以上**(2018)  
 フリーランスによる経済規模  
**20.1兆円**(2018)

### 消費の多様化:

訪日外国人旅行者による消費額  
**4.5兆円**(2018)

**「多様性」と「イノベーション」を通じた付加価値創出により、生産性の向上につなげられないか。そのために都市が果たす役割は何か。**

“偶然の出会い”を生む「都市空間」

(カフェ、ストリート、広場、公園、水辺等)

+

“リアルな繋がり”を育む

「コミュニティ」×「場（プレイス）」

(コミュニティマネジャー、インキュベーション・コワーキングスペース等)

まち・エリア全体の価値を高める

「オペレーションシステム」

(エリアマネジメント、リノベーションまちづくり等)

# 懇談会においてご議論いただきたい事項（例）

- ✓ 都市を舞台とした**新たな動き、兆候**として、どのようなものに着目すべきか。
- ✓ 人口減少局面においても、多様な主体・活動を取り込み、様々なレベルで広い意味でのイノベーション※を創出するために、都市やまちが果たすべき役割、必要とされるものは何か。  
①機能、 ②活動・取組、 ③組織・担い手 ④空間・施設・場、 など
- ✓ 都市やまちが目指すべき**個性的な方向性・あり方**として、どのようなものがあるか。パターン化・類型化することはできるか。
- ✓ その際、従来の業務/商業/住宅等の区分や、大都市/地方都市等の区分をどう考えるか。
- ✓ 都市やまちが置かれた**異なる現状**（例えば再開発完了エリア、老朽化・更新時期を迎えるエリア、そもそも開発が難しいエリアなど）ごとに、その魅力や磁力を高める上でどのような処方箋が考えられるか。
- ✓ これまでの都市再生の取組（民間都市開発の進展、リノベーションまちづくり、エリアマネジメントなど）をどのように評価しているか。高く評価できる点、不足している点は何か。
- ✓ 今後都市再生の取組を進めるなかで、**官民に求められる役割**は何か。  
**国レベルでの都市政策**に求められる取組はどのようなものか。

※本懇談会において「イノベーション」とは、経済・産業面での新技術の革新及び社会実装のみならず、社会的意義があり、社会に変革をもたらさうような、新たな価値の創造を広く指すものとする。